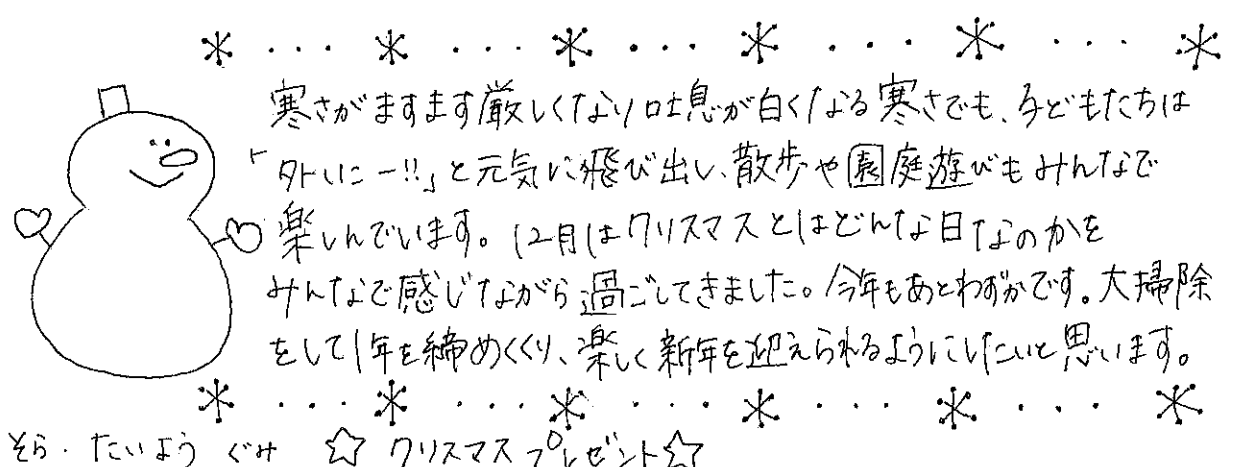




# ワラスだより

かぜぐみ そらぐみ たいようぐみ  
円町まがね隣保園 2024.12.27



\*...\*...\*...\*...\*...\*...\*...\*...\*  
寒さがますます厳しくつよの吐息が白くなる寒さでも、子どもたちは「外にー!!」と元気に飛び出し、散歩や園庭遊びもみんな楽しんでいました。(2月はクリスマスとはどんな日なのかをみんな感じてよがり過ごしてきました。今年もあじわひかです。大掃除をして1年を締めくくり、楽しく新年を迎えらるるようにつよ思います。)  
\*...\*...\*...\*...\*...\*...\*...\*...\*  
そら・たいようぐみ ☆クリスマスプレゼント☆

## かぜぐみ 脱いだTシャツ・ズボンと格闘中!

12月から、脱いだ服を自分で畳んで汚れ物袋に入れることを始めました。脱いでクルクルに丸まったズボンの裾を伸ばして畳むところを見せると、手品でも見たかのように「おお〜!」と驚きの声を上げていました。その後すぐに「できるぞ」「やりたい」と、Tシャツとズボンを畳み始めていました。ロッカーの前で「あかちゃん、たたむよ〜」「ママ〜たたんでよ〜」と、ごっこあそびを繰り広げながら畳んでいたりと、「たたんでくれたしみできて〜」と、楽しみながら意欲的に取り組んでいます。

今までは、脱いだそのまま袋に入れていた子どもたちですが、今は脱いで丸まった状態の物でも、どうにかしようと更に小さく2つ折りにして袋に入れていきます。その姿から、畳もうと格闘していることがよく伝わってきます。

毎日の経験を通して、半分に畳む動作を身に付けたり、身の回りのことを1つひとつ丁寧にしたり、自分のことは自分でしようとするを大切にしていきたいと思っています。

## ☆クリスマスごっこ ~「おおきくなったらマリアする!」「てんしする!」

毎朝、そら・たいようぐみと一緒に 聖誕劇で歌う曲を歌ったり、クリスマスごっこを見たりすることで、日に日に増していく憧れの気持ち。朝や夕方には舞台上に立って歌ったりセリフを言ったりして楽しんでいました。保育者に見られていることに気付くと急に照れてニヤニヤしていましたが、隣にいる友だちの手をギュッと握り、照れながらもやり切っていました。

「皆は大きくなったら、何の役がしたい?」と聞くと、「てんし!」「マリアする!」「やどやさん!」とそれぞれにやってみたい役があり、男の子も「マリアしたい」と言っていました。皆の前で堂々と舞台上に立ちクリスマスごっこをする、そら・たいようぐみの姿は、かぜぐみの子どもたちにとって、とてもキラキラしていて、格好良く見えていたようで、憧れの的でした。

## クリスマス制作 ~ ツリー & 食卓リヤ

大きなまつぼっくりや、拾ってきたどんぐりに色付けをして、屋は紙粘土を使って自分たちで開花を作り、子どもたち同士で「じょうずやな」「ほしや!」と、大満足していました☆

クリスマスおめでとうのプレゼントはリースを作りました。最初は子どもたちと一緒に育てり又横たにサツマイモの蔓を使ってリースの土台を作りました。乾燥させている間に園外保育で色紙はとろいいき、どんたリースを作るかワクワクはよから「これつけよ〜」「これもつけたらいいぞつけられるかな〜」と木の葉や葉っぱなどを拾い集めました。中には木々の日にお家から遊びに行つた先で「リースにつけようとおもってひろった!」と嬉しそうに持ってくる子どももいました。そして飾り付けは「ニニにこうつけたら!」と向きと場所を伝え、保育者と一緒につけて完成させました。拾いあげた全部つけられず「もうはるぞんぶい〜」「いっぱいつけてごうかになつた!」という子どもがいたり、「ニニにつけたらきれい」と位置や向きにこだわりのつけたい個数が終わると満足している子どもがバニリと思いのリースが出来上がりしました。

クリスマスみんな楽しんでました😊  
11月の終わりに頃からみんなが聖誕劇の話をして、役の話をしてクリスマスに向けて少しづつ気持ちが向いていくのを感じていました。クリスマスとはどんなものなのか絵本を見たり、礼拝で話を聞いてみると、少しづつ子どもたちの中で「クリスマスはイエス様のお誕生日」「聖誕劇は嬉しいお話」とみんなの思いがひとつになっていきました。(2月にはとアドベントカレンダーが毎日の楽しみのひとつとなり「きょうはどんなん?」という組からけるのを見てみんながクリスマスを楽しんでいました。クリスマスごっこが始まると、最初は「これいいのかわよ...」という様子で、不安で保育者の顔を見たり、取っかかしてぶついたりセリフや歌の声をとても小さくたてず。しかし、役が決まり、その役は自分がやるんだという思いが出始めると自然と力が入り始めていきました。ドキドキしている中にも自信が見え始め、セリフや歌が覚えられてくると保育者が声を掛けなくてもたじろんと大きくなってきていきました。一度ビビッておどって自分たちの姿を見返すと「こえきこえん...」と自分で気付きみんなが言うセリフや歌は更に大きくなっていきました。友だち同士で声を掛け合い交えて最後は一体感のある聖誕劇にたよりました。

そして本番!!  
「どんな気持ち? ドキドキしてる?」と聞くと「たいしょうぶー!」とみんな笑顔で元気に返事が返ってきました。その日の子どもたちの表情は一番輝いていて保育者の方々に見えてもらっている嬉しさや、笑顔や声の大きさなどに出していました!